

発行：ひたちなか市の環境を良くする会
 編集：広報委員会
 事務局：ひたちなか市環境保全課内
 住所：〒312-8501 ひたちなか市東石川 2-10-1
 TEL：029-273-0111 内線 3312, 3313
 FAX：029-272-2435
 E-MAIL：kankyo@city.hitachinaka.l(ill)g.jp

環境から版

環境シンポジウムを開催

自分にできることを考え行動しよう

「ひたちなか市の環境を良くする会」と「ひたちなか市」の共催で、環境にやさしい取組を紹介しようと、平成22年1月30日(土)にワイクプラザ勝田で「ひたちなか市環境シンポジウム」を開催し、市民や市内事業所などから約170人が出席しました。

シンポジウムは、会員有志によるエコ体操を客席の出席者と一緒に行ったあと開会し、渡辺会長は、「このシンポジウムが皆さんの環境活動に役立つポイントを見つけて出す契機となれば幸いです。」とあいさつしました。続いて本間市長は、「環境問題をひとりひとりがか考え取り組んでいくことが、地域・日本・世界全体へと広がっていくので、今回をいい機会にしてくださいたい。」とあいさつしました。

はじめに、ごみ減量標語コンクールの優秀作品の表彰を行い、シンポジウムでは、東石川小学校、阿字ヶ浦中学校、エコカレッジひたちなか、地球大好きエコクラブ、いばらきコープ生活協同組合の皆さんが環境活動に取り組んだ事例発表を行いました。

また、発表のまとめとして、茨城大学の原口弥生准教授から講評をいただき、環境問題について考える1日となりました。

東石川小学校の5年生は、地球温暖化を防止するために、テレビを見ない時はスイッチを切るなど



阿字ヶ浦中学校の発表



東石川小学校の発表



いばらきコープ生活協同組合の発表

小さいことだけでなく私たちができることに取り組んでいきたいと発表しました。

阿字ヶ浦中学校の1・2年生は、阿字ヶ浦海岸に群生していたスカシユリの栽培実験や沢田湧水地の保護保全活動の研究を紹介し、地域に残る貴重な自然を守ってきたいと発表しました。

地球大好きエコクラブとエコカレッジひたちなかは、環境教育や環境啓発活動を行い、市民の環境問題への意識向上を図りたいと発表がありました。

いばらきコープ生活協同組合は、太陽光発電装置の設置やバイオディーゼル燃料の導入などに取り組んでいます。さらに温暖化防止に貢献できるように、27万人の組合員へと取組を広げていきたいと発表しました。

出席者は、それぞれの発表を聞き、環境問題について自分にできることを考えていた様子でした。

『ひたちなか市の環境を良くする会』は、市民、民間団体、事業者及び市が互いに協力し、より多くの市民や事業者が、身近な自然や環境を大切にする心を育むとともに、環境保全行動の定着を図るため活動しています。

具体的な活動を計画し実行するのは、ごみ問題、温暖化防止、自然環境の3つの分科会が中心となっています。より多くの市民や事業者が参加・行動できるような事業を行いたいと張り切っています。

活動のよす
自然環境分科会

街路樹など市道管理について、市道路管理課より実情を聞きました。約7000本の街路樹があり、補充が年に20〜30本、剪定を3年に1回実施とのこと。この剪定頻度では支障が出ることも考えられ、私たちに何ができるかを考えていきたいと思えます。

テーマとしてきた名平洞の浄化や斜面緑地の保全に関し、会員より、ヤクルト空容器や特殊納豆菌などを使った簡単な浄化方法の紹介、管理が困難な斜面林の手入れ方法として福井県で行われている「鋸谷(おがや)式間伐」についての説明がありました。今後の活動に生かしていければと思っています。

多良崎城跡自然観察会については、より多くの生物が観察できる5月を目標に、時期、内容・運営方法などを議論し、企画案を作っていくこととしました。

また、1月に水戸市環境会議の西原さんを講師に招き、「みなと線から見た自然観察」/勝田から阿字ヶ浦1億年の鉄道の旅のテーマで各駅ごとの地質から見た自然環境の話をお聞きしました。那珂台地の特色ある地質構造が分かり、今後の分科会活動に生かそうです。

活動のよす
ごみ問題分科会

分科会では、ごみの排出量を更に減らしていこうと、「ごみの分別の徹底」と「生ごみの堆肥化」の2つのテーマに沿った活動を展開しています。

今年度は、「ごみの減量」標語コンクールを実施し、先日の環境シンポジウムで表彰を行いました。697作品も応募があり、素晴らしい作品ばかりで、市民の皆様の関心の深さ・高さに圧倒されました。また、農政課から市内の農業について、環境保全課から剪定枝等を使用した堆肥について説明を受けたので、生ごみの堆肥化の検討に活用していこうと思えます。



優秀作品の表彰式

来年度は、まず生ごみの堆肥化のノウハウなどを学ぶため、先進地視察を行います。そして、ルートの確立や事業計画など詳細について検討し、市民の皆様と事業者、行政が三位一体となり、協働事業として「生ごみ堆肥化モデル事業」を本格的に立ち上げるための年としたいと思えます。

活動のよす
温暖化防止分科会

ごみの排出量を減らすためには、まずはごみの分別と生ごみの減量が大切です。皆さんも分別の徹底と、生ごみの水切りをしっかり行いましょう!

当会提案の環境講座『食と温暖化防止』参加者の感想からは、市内の農業・学校給食の実情を知ることができ、また現場からの広い視野での食に関する環境問題など、有意義であったとの声が多く寄せられました。食料自給率約40%の日本は、当然フードマイレージの数値は非常に高く、多くの輸送燃料を使い、大量の二酸化炭素を排出し、たくさんの環境負荷を掛けていることになりました。

期せずして当日午後の意見交換会で、「ミニ環境講座 E Mと生ごみ」があり、食の問題は廃棄の点からも環境と深く関わっていることを痛感。

緑化運動は温暖化防止に直結では農地も緑地の一部と考えれば? また視点を換えれば、世界的には食料不足と水不足は大きな課題。食と温暖化防止のテーマはどうも奥が深いようです。しかも、二つの分科会の共有課題でもありそうです。

フードマイレージから見える「食と環境」、来年度も引き続きテーマとして、より近づけた視点で進めら

ればと話し合っています。たくさんの方の参加が、「環境を考えるひとちなか市」の大きな地域力となります。私たち自身の暮らし方・食の選択を、みんなで考えていきましょう。

フードマイレージは、食料の重量(t)×輸送距離(km)で算出します。

環境講座より

12月5日ワークプラザ勝田でNPO法人有機農業推進協会副理事長先崎千尋氏を講師に招き、「食と温暖化防止」副題「フードマイレージと地産地消」と題した環境講座が開催されました。

先崎氏が役員として関わりひとちなか市も会員となっている環境自治体会議のめざすものとは、政策のあらゆる分野に環境への配慮を取り入れた自治体であることを説明した後、どこで誰が作ったか知らないものを食べている食生活の現状が食の安全性や国内農業の衰退を招いており、結果として日本のフードマイレージが突出して世界第一位となっていることを説明し、農業の再生が温暖化防止につながることを力説しました。

日本農業が生き延びるには、生産者だけでなく消費者も地産地消の考え方を持つことが重要であり、

直売所の活用や学校給食に地元でとれたものを使う、旬のものを旬に味わう旬産旬消を意識すべきである。また、地元のことを理解し、特産品に関心を持ち地域全体で育てていくことが必要と話されました。

約70名の参加者は、熱心に聞き入っていました。



環境講座のようす

第3回意見交換会を開催

第3回全体意見交換会が12月5日(土)市企業合同庁舎大会議室で開催されました。

ごみ問題分科会からは、ごみ減量標語受賞者の決定と表彰、生ごみ堆肥化の検討経過が報告され、分別の方法や堆肥の品質などについての意見がありました。

温暖化防止分科会からは、フードマイレージを切り口とした温暖化防止啓発、エコドライブ普及の取組について報告があり、NPO

との連携、出前講座での啓発などの提案がありました。

自然環境分科会からは、市農業の実情に関する学習、多良崎城跡自然観察会の計画などが報告され、情報の共有、会報の活用などの意見が出されました。

これらの意見・提案は、今後の活動に反映されることでしょう。

この後、役員会への各分科会長・委員長の参加、役員会、分科会、委員会への会計、書記の設置、学習委員会とイベント委員会の統合を決定し、ごみ問題分科会の吉澤昇さんによるミニ環境講座「EMと生ごみ」でEMを使った生ごみの堆肥づくりを勉強しました。

会員紹介

持続可能な社会の実現をめざして

㈱日立製作所水戸事業所

当事業所は、エレベーター、エスカレーターや、鉄道の制御装置の開発から製造までを行う工場です。「日製水戸工場」の方が分かりやすいでしょうか。

新しいエレベーター研究塔が本年完成し、省エネや省資源を追求した新しい製品の開発が一層進むことが期待されています。また、鉄道は環境負荷が少ない交通機関として世界的な発展が期待でき、当社もその一翼を担うべく展開中です。生産設備には最新の省エネ設備

を積極的に導入して温暖化を防止し、廃棄物の分別によりリサイクルを徹底しています。例えば部品のケースは再利用し、プラスチックはプラスチックに戻し、食堂の生ごみは堆肥に、現場の廃水も浄化し一部をトイレの洗浄に使用をはじめました。

日立グループは「環境ビジョン2025」を定め、地球温暖化防止のため1億トンのCO2削減をめざしています。



新エレベーター研究塔

会員紹介

楽しくなかくよく活動しています

ワンネス・エコひたちなか

環境問題が報道されることが多くなり始めた12年ほど前から、平和で環境破壊のない、みんなが幸せに暮らせる社会を作りたい」という思いの老若男女(いや、12年たち若者求む!)が集っています。

ワンネスとは、みんな一つにつながっているという意味です。そう意識し行動する人が増えれば、自分を

含めたみんなが幸せになれると考えています。

月2回のミーティング、講演会、ワークショップの開催、エコツアーや見学研修会のほかに、環境問題を楽しくわかりやすく伝えるオリジナルの環境劇「白雪姫のりんご」を上演しています。

白雪姫が魔法使いにもなった毒りんごには「電磁波、紫外線、環境ホルモン、合成界面活性剤、食品添加物、遺伝子組換え食品などの危険がいっぱいだよ」と小人が指南役。替え歌やラップ、環境絵本の読み聞かせなども取り入れ、ごみ削減や温暖化防止活動を楽しく続けましょうと呼びかけます。

また隔月で通信「シェアの森」を発行し、活動状況や環境情報を発信しています。楽しくなかくよくが合言葉。ご一緒にしませんか!



「白雪姫のりんご」熱演中

冬の省エネキャンペーンを実施しました



勝田駅前 チラシ配付

地球温暖化防止の意識向上を訴えるために、本会では1月22日勝田駅前、冬の省エネキャンペーンを実施しました。

当日は折からの寒風が吹く中、朝早くから会員が駅前に集合し、通勤・通字の人々に、温暖化防止を呼びかけたチラシとティッシュを配りました。駅の東口、西口、1階と2階に分かれ、用意した1、500枚のチラシは瞬く間に無くなりました。

冬の省エネキャンペーンは、日々の生活の中でできる簡単な取組



チラシ配付のようす

投稿をお待ちしています

広報委員会では、会報を年3回(7, 11, 2月)発行する予定です。

会報に、会員や市民の皆さんが普段感じたことや、実践しているエコや身近な自然などに関する記事を掲載したいと思っています。

投稿記事は、300字程度にまとめ、実名、連絡先を明記願いますが、記事署名はペンネーム、匿名を可とします。

投稿は、郵便、電子メール、FAXで事務局まで

で地球温暖化をストップしようというもので、ウォームヒズ、電球型蛍光灯への取替、エコドライブ等を呼びかけました。少しづつ春の兆しを感じられませんが、省エネで温暖化を防ぎましょう!

~ 家庭でできる温暖化対策 10の取り組み ~

できることから始めてみましょう!

- 1 冷房の温度を1 高く、暖房の温度を1 低く設定する
- 2 週2日車の運転をやめる
- 3 1日5分間のアイドリングストップを行う
- 4 機能上支障のない機器をコンセントから抜いておく(待機電力の削減)
- 5 シャワーを1日1分家族全員が減らす
- 6 風呂の残り湯を洗濯に使いまわす
- 7 ジャーの保温を止める
- 8 家族が同じ部屋で団らんし、暖房と照明の利用を2割減らす
- 9 買い物袋を持ち歩き、省包装の野菜を選ぶ
- 10 テレビ番組を選び、1日1時間テレビ利用を減らす

定例総会を開催します

平成22年度の総会を次のとおり開催します。

- 1 日時 平成22年4月18日(日) 午後2時から
- 2 場所 ワークプラザ勝田大会議室
- 3 議題 活動報告・計画、決算・予算、役員選出など

会員(当日入会者を含む。)の参加をお願いします。また、傍聴もできますので関心のある方は是非参加を!



会員を募集しています

本会では、会員を募集しています。市内に在住、通勤、通学している方なら誰でも入会できます。(個人又は家族)

また、市内で活動している団体、事業所も会員になれます。

・年会費(1口以上)

個人・家族会員 1口 500円

団体会員 1口1,000円

事業所会員 1口2,000円

詳細は事務局まで

現在の会員総数 5,386名

編集者だより

春が来る

花便りをTVが伝えている。画面いっぱい黄色い花が広がる南の町の菜の花畑を写し出している。

北国の友人からは桜の蕾の赤黒い写真付の携帯メールが届いた。

「こちらにも春が近づいています、桜のツボミも膨らんで来ました。この桜は例の小学卒業の記念植樹です。最近では小生も環境問題を気にかけて生活しています。この桜がずっと永く咲く様に、空と土と水を守りたいと思っています。」

雪が融けたらまた飲みに来て下さい。飲んで駄弁るテーマに環境問題が多いこの頃、苦笑である。

(文責 若林)